

## 令和7年度 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日時：令和7年12月18日（木）
2. 場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口
3. 出席者：藤田委員長、石田委員、奥野委員、粕谷委員、  
西條委員、辻本委員、中村委員、朴委員、  
長谷川委員、松尾委員
4. 議 事：
  - (1) 規約の改正
  - (2) ダム等の定期報告
    - 1) 長良川河口堰
    - 2) 丸山ダム
    - 3) 岩屋ダム
  - (3) その他報告
    - ・ 令和6年年次報告
    - ・ 令和7年度の主な出来事
  - (4) 審議概要の確認

## 長良川河口堰 定期報告について〈審議〉

### 【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた長良川河口堰の定期報告書（案）について、審議を行った。

その結果、長良川河口堰は治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標に顕著な変動は認められていないことから、長良川河口堰については適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 治水

・特になし。

ii) 利水

・特になし。

iii) 塩害防止・地下水位の変動

・特になし。

iv) 水質・底質

・特になし。

v) 生 物

- ・ヤマトシジミ（汽水域）の生息状況については、餌となる植物プランクトンの出現状況（湛水域）との関係性についても着目して検討すること。
- ・物理環境の変化と生物の変化を関連付けて総合的に分析・評価する方法の検討にあたっては、陸域の植生にも着目し検討すること。
- ・総合的な分析評価にあたっては、生物の増減に係る各要因（餌、水温等）との相関関係を確認し、先ずは、概念図等で整理すること。

vi) 地域との関わり

・特になし。

vii) 今後の調査計画

- ・特になし。

viii) その他

- ・長良川河口堰運用後 30 年が経過し、環境も落ち着いている中で、今後も生物多様性に着目しつつ、管理運用にあたられたい。

○定期報告書（案）については、了承する。委員からの意見等は、提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

## 丸山ダム 定期報告について〈審議〉

### 【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた丸山ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、丸山ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標に顕著な変動は認められていないことから、丸山ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

#### i) 防災操作

- ・特になし

#### ii) 利水（発電）

- ・特になし

#### iii) 堆 砂

- ・特になし

#### iv) 水 質

- ・クロロフィル a について、令和 2 年と令和 5 年の平均値に増加がみられると記載しているが、一時的に高い数値が観測されたことにより、平均値を押し上げていると考えられる。

#### v) 生 物

- ・コクチバスが最新調査で初めて確認されており、早期に対策が必要と考えられる。
- ・外来種は、増えた後では対策が困難となるため、増える前から早期の対策を講じる方がよい。このためには、関係機関との連携、水辺・湖面の利用調整などが重要である。
- ・カワネズミについて、「明瞭な変化はみられていない」とあるが、平成 7 年度以外の調査で、確認されていないため、適切に記載をすること。
- ・生物（魚類）の生息・生育状況の変化とダム湖及びその周辺環境等と

の関係について分析することが望ましい。

- ・丸山ダム下流河川でカワウの集団ねぐらが確認されており、早期に対応できる準備をしておくことが望ましい。

vi) 水源地域動態

- ・特になし

○定期報告書（案）については、了承する。委員からの意見等は、提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

## 岩屋ダム 定期報告について〈審議〉

### 【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた岩屋ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、岩屋ダムは治水・利水（発電等）について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標に顕著な変動は認められていないことから、岩屋ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

#### i) 防災操作

- ・特になし。

#### ii) 利水（発電等）

- ・特になし。

#### iii) 堆 砂

- ・堆砂測量方法の変更前後の堆砂データを分析し、堆砂量の変化状況を確認すること。

#### iv) 水 質

- ・濁水の状況については、濁度に加え、粒度分布等濁質の性状調査を行うこと。
- ・濁水長期化対策として、中層取水の取り組みは有効と考えられる。今後もデータを蓄積し、効果的な運用方法を検討していくこと。

#### v) 生 物

- ・岩屋ダム周辺でのカワウ対策について、他機関に頼るのではなく、ダム管理者として初期に対応ができるよう準備をしておくこと。
- ・リリース禁止等のコクチバス対策の啓発については、引き続き、釣りによる湖面利用者にも広く周知を図ること。

vi) 水源地域動態

・特になし。

○定期報告書（案）については、了承する。委員からの意見等は、提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。